

## 第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

### 報告書資料 一般-63

学校名・団体名	名古屋市立白鳥小学校
HPアドレス	<a href="http://www.shirotori-e.nagoya-c.ed.jp/">http://www.shirotori-e.nagoya-c.ed.jp/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	自分で考え、学び合う児童の育成 ～タブレットを活用した学習を通して～
<b>〈活動・研究の意義、目的〉</b>  本校は、平成25・26年度に名古屋市教育委員会より、ICT機器活用モデル実践校に指定され、高学年の一部のクラスを対象に、各教科で「分かる」「できる」授業づくりを行ってきた。 この事業により整備された2教室分（66台）のタブレットを、今後も効果的に活用し、本校の教育活動の特色として定着させていきたい。 そこで、今年度は、「自分で考え、学び合う児童の育成～タブレットを活用した学習を通して～」をテーマに掲げ、授業実践に取り組む。タブレットのもつ共有・交換・付箋機能等を活用し、学び合う児童の育成を図りたい。	

## 1 研究のねらい

本校は、平成25・26年度に名古屋市教育委員会より、ICT機器活用モデル実践校に指定され、高学年の一部のクラスを対象に、各教科で「分かる」「できる」授業づくりを行ってきた。この事業により整備された2教室分(66台)のタブレットを、今後も効果的に活用し、本校の教育活動の特色として定着させていきたい。

そこで、今年度は、「自分で考え、学び合う児童の育成～タブレットを活用した学習を通して～」をテーマに掲げ、授業実践に取り組むことにした。タブレットのもつ共有・交換・付箋機能等を活用し、学び合う児童の育成を図りたい。

## 2 研究の実際

### (1) 実践内容

#### 1 学期実践 社会科5年「これからの工業生産とわたしたち～エコカーから見える近未来社会～」

☆ 共有機能を活用し、グループで話し合い、考えの構築を図った実践

##### 【実践のねらい】

デジタルワークシートを活用し、これからの未来に必要な工業生産について、自分の考えをキャッチフレーズにまとめる。グループ機能を活用して、グループ内の友達の考えが見られるようにし、話し合いを行うことは、それぞれの考えの違いに気付きながら、自分の考えを見直したり、高めたりすることに役立つことができるか。

##### 【学習環境の整備】

教師用タブレットの閲覧機能を生かして、グループの考えている様子をリアルタイムで見せたり、グループでの考えの違いに気付かせたりした。児童の考えを電子黒板の左右に指導用ホワイトボードを置き、子どもたちの発言を板書したり、学習問題や写真を貼り付けたりした。

##### 【実践の成果と課題】

キャッチフレーズの内容が「工業製品」「環境への配慮」「共同研究や開発」など多岐にわたったため、グループによっては、考えをまとめるまでに至らなかったグループもあった。討論するための論点の吟味、タブレットに書き込む内容の精選を図る必要があった。



#### 1 学期実践 社会科6年「武士の世の中へ」

☆ 共有機能を活用し、児童の問題意識の醸成を図った実践

##### 【実践のねらい】

指導用デジタル教科書の静止画を活用し、タブレットパソコンで見たり、比較して考えたりすることは、武士と貴族の様子の違いから、武士の生活を捉えることに役立つことができるか。

##### 【学習環境の整備】

電子黒板の左右に指導用ホワイトボードを置き、子どもたちの発言を板書したり、学習問題や写真などを貼り付けたりした。

##### 【実践の成果と課題】

デジタル教科書「貴族の館」と「武士の館」を並べて電子黒板で表示し、その違いを探る活動を行った。児童は、個人用のタブレットで表示されたデジタル資料から違いを見付け、その箇所には○をつけていった。意欲的に時代の特徴となる内容(武芸に励む、武士に階級がある、外部からの侵入を防ぐ櫓がある)を、デジタル資料から読み取ることができた。



#### 2 学期実践 社会科5年「自然災害を防ぐ～南海トラフ巨大地震への取り組み～」

☆ 付箋機能を活用し、調べてきた防災に関する取り組みを、国・市・企業・大学などのそれぞれの立場ごとに分類整理し、新たな発見や考えの構築を図った実践

##### 【実践のねらい】

ジャストスマイルの付箋機能を活用し、グループに分かれ、国・市・企業・大学などのそれぞれの立場ごとに分類し、フラッシュカードを用いて整理する。また、学習を振り返り、「名古屋市の取り組みは十分だろうか」について4段階尺度法で自分なりに評価し、学級全体で話し合う活動を行う。

分類整理する活動、自己評価し話し合う活動を行うことは、自分の考えを見直したり、高めたりすることに役立つことができるか。

##### 【学習環境の整備】

教師用タブレットの閲覧機能を生かして、グループの考えている様子をリアルタイムで見せたり、グ

ループでの考えの違いに気付かせたりする。児童の考えを電子黒板の左右に指導用ホワイトボードを置き、子どもたちの発言を板書したり、学習問題や写真などを貼り付けたりする。

#### 【実践の成果と課題】

調べた防災に関する取り組みを、国・市・企業・大学などのそれぞれの立場ごとに分類整理したことで、それぞれの機関や人々が協力していること、補完していることなどに気付くことができた。

「十分」「やや十分」「やや十分でない」「十分でない」の4段階で、市の取り組みを評価したことは、自分なりの根拠を明確にすることにつながった。しかし、自己評価の発表となり、この尺度の理由について深く話し合うまでには至らなかった。



### 2 学期実践 社会科 6年「新しい日本、平和な日本へ」

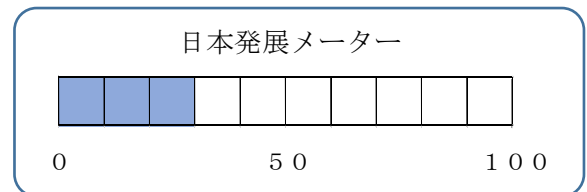
☆ 付箋機能を活用し、「国際関係」「平和」「経済発展」などをキーワードにして、これからの日本の発展について自分の考えの構築を図る実践

#### 【実践のねらい】

各学習過程において、「日本発展メーター」を作成する。「日本発展メーター」とは、日本が民主的な国家として、どれくらい国内外に誇れる国になったのかをパーセントで表し、その根拠について記入したものである。これをそれぞれのタブレットで作成し、自分の数値や根拠を振り返ることを通して、学習問題の解決を図る。

#### 【学習環境の整備】

教師用タブレットの閲覧機能を生かして、一人一人の「日本発展メーター」の数値をリアルタイムで見せたり、一人一人の考えの違いに気付かせたりする。



#### 【実践の成果と課題】

随時、「日本発展メーター」を作成し、考えを交流する中で、当時の白鳥学区でも戦後の復興・発展への取り組みが行われ、大きな変化を成し遂げられたことをとらえることができた。平和・国際関係・経済成長・当時の人々の努力などをキーワードに、日本の発展していく年表を読み取り、主な出来事を調べ発表した。児童の中では、「憲法ができ、平和と民主主義の日本が築かれたのが分かった」「経済が発展し、生活用品も向上した」などの変化をとらえることができた。

「社会に関わる」段階では、追究のめあてを調べ終わるたびに作成し、累積していった「日本発展メーター」の数値や根拠の変容から、戦後から現在までの復興・発展への取り組みや現在の日本が抱えている問題や国際社会の一員としての果たす役割について振り返った。



#### (2) 研修内容

社会科の公開授業に対する指導 講師 国士舘大学教授 北 俊夫氏による指導と講演

#### 【講演内容】

社会科は内容教科といわれる。どのように学ぶかが先行されているが、「何を」学ぶかが大切である。授業づくりについては、学ぶ内容と児童の問題意識を大切に授業展開を考え、発問、板書を計画してほしい。また、毎時間の学習の振り返りを大事にしたい。学習問題をどの程度解決できたかを振り返ることで、次時の学習の見通しや学習意欲の喚起につながると考える。その意味では、各場面で子どもたちに意思決定を迫る指標やシンキングシートは効果的である。意見を言い合う場面には、自分の考えを高めていく、深めていく、考えを進化させていく個人思考と、みんなでよりよい考えをつくっていく協働的、創造的な話し合い活動、集団思考がある。双方とも大切にしていってほしい。

### 3 成果と課題

- タブレットの活用により、全員参加の授業が展開でき、児童の学習意欲を高めることができた。
- 共有機能や交換機能などによって、自分と友達との考えの比較やかかわりに気付きやすく、話し合い活動の活性化に役立つことができた。
- 付箋機能を活用することにより、自分の考えやクラス全体の意見の傾向も分かり、考えの可視化を図ることができた。これにより、根拠探しや根拠づくりに向けた調べ活動に発展したり、自分の考えの根拠を見直したりする児童の姿が見られた。